

社会福祉法人 安積愛育園 総合児童発達支援センター アルバ

1. 施設の概要

所在地 福島県郡山市安積町笹川字経坦 52 番地
施設 入所支援事業所（福祉型障害児入所施設）
入所（30名）、短期入所（8名）、日中一時支援
その他の事業 通所支援事業所「チエロ」、相談支援事業所「エッコ」

法人Webサイト <http://asaka.or.jp/alba/>

2. 地域及び施設の特徴

-地域で50年の運営実績を持つあさかホスピタルグループ-

昭和38年、郡山市内に「あさかホスピタル」（精神科541床）を開院。現在、あさかホスピタルグループとして、医療法人及び2つの社会福祉法人、NPO法人を運営するほか、先駆的な地域共生事業として牧場やレストラン経営に取り組んでいる。

昭和42年、「あさかホスピタル」隣地に「安積愛育園（現・総合児童発達支援センターアルバ）」を開設。敷地内には、昭和50年代に法人が誘致した福島県立あぶくま養護学校安積分校（小学部・中学部）があり、施設に入所する児童が通学している。

平成23年の東日本大震災により、「安積愛育園」の生活棟が全壊。施設の全面改築に伴い、施設名称をイタリア語で「はじまり」「夜明け」の意味を持つ「アルバ」に改称した。



① 入所支援事業所「アルパ」

-木造のぬくもりを活かした設計と全室個室によるユニットケアの取り組み-

入所支援事業所「アルパ」は知的障がい児の生活・自立支援を目的とした施設。

施設は全個室、ショートステイ用の1ユニットを含めた5つのユニット（「たいよう」「だいち」「おおぞら」「にじ」「うみ」）で構成され、8つの個室から成るユニットは入所児の生活リズムの違いを考慮して性別・年齢で分けられおり、落ち着いて過ごせるように配慮されている。



施設の設計では、ショートステイ用を除く4つのユニットは2ユニットごとにキッチンの後ろにある事務所部分でつながっており、スタッフの夜勤配置（2ユニットに1人）に対応した造りになっている。また、一般家庭に近い環境を提供するため、手洗い場をあえて自動水洗にしないなど、入所児にとって施設が便利になりすぎないように心がけた。

食事は法人内の施設から配食されてきたものと合わせて、ユニット内でご飯、お味噌汁作り各自で配膳している。各個室には、ベッドと机、洋服ダンスが備え付けられている。ユニットケアにより施設が細分化され、スタッフへの負担は大きいですが、これまで以上に子どもたちの成長を見てとることができるようになった。



施設の共有部分には庭や広場を設けることで、ユニットケアであっても子ども達（時には地域の方々）が集まり交流できる場所を確保している。

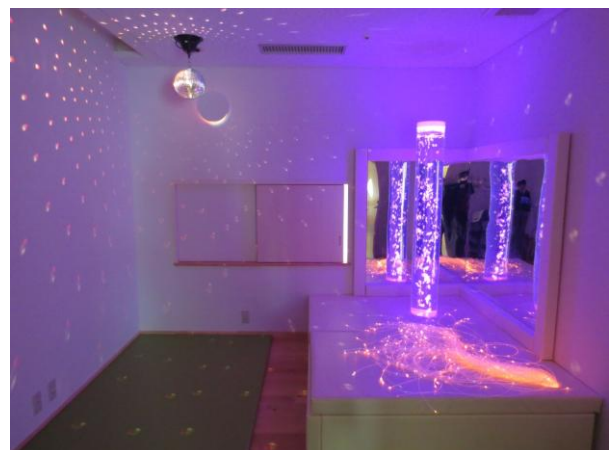


② 通所支援事業所「チエロ」

-広々としたプレイルームとリラックス効果のあるスヌーズレンルーム-

通所支援事業所「チエロ」では、1：1で療育を行う個別療育のための指導訓練室を2部屋、集団療育に用いるプレイルームを設置している。プレイルームでは、床面に木の加工を施し、靴を脱いでも床の冷たさを感じさせないよう工夫されている。また、ミラーボールやバブルユニットを備えた「スヌーズレンルーム」を設置し、光や音の刺激により脳をリラックスさせる効果を図っている。

ほかに、グループで運営する牧場ではポニー、山羊や豚を飼っており、簡単なアニマルセラピーも合わせて行っている。



3. 今後の展開と課題

-地域のニーズにワンストップで応えるために-

現在、施設では相談支援事業や市主催の親子ふれあい教室、保育園等に定期的に職員を派遣し、子どもの発達について相談を受けるほか、必要であれば行政と連携して施設の紹介を行っている。施設を地域の社会資源として活かし、相談・通所・入所事業を通して地域の方々のニーズにワンステップで応えられるように事業展開したいと考えている。目下、福島県内の人材不足が課題となっている。

-平成 26 年 6 月猪苗代町にアール・ブリュット「はじまりの美術館」をオープン-

平成 26 年 6 月には、日本財団の「New day 基金」により猪苗代新町の築 130 年になる酒蔵を改造し、「はじまりの美術館」(<http://asaka.or.jp/hajimari/>)を開館予定。これまでも利用者による創作活動集団「unico (ウーニコ)」により、施設の窓ガラスや壁を使っての創作活動が行われており、かねてより作品を発信する場を希望していた。アール・ブリュット（専門的に美術を学んでいない人がこれまで培われてきた技法や文脈に頼らずに生み出す表現）の考えを軸に、アートの発信の場になると同時に、地域の活性化、様々な「違い」を楽しむ場を作りたいと考えている。

